

「鼻炎症状はいつも朝出る」解明

アレルギー反応 体内時計が制御

山梨大教授ら

じんましんなどアレルギー反応は、体内時計に制御されていることを、山梨大医学部の中尾篤人教授(免疫学)の研究チームがマウスの実験で明らかにした。アレルギー性疾患の新たな

予防や治療法の開発につながる可能性があるという。米国の学会誌に近く掲載される。中尾教授は、鼻炎やぜんそくの症状が朝方に悪化する人が多いなど、アレルギー

ギー反応が特定の時間帯に起きやすいことに着目し、睡眠や血圧など一日のリズムを制御する体内時計がアレルギー反応と関係しているとの仮説を立てた。実験では、体内時計で中心的な役割を果たす遺伝子を変異させてマウスの体内時計を乱した。その結果、本来夜行性のマウスが、特定の時間帯だけでなく、一日中アレルギー反応を示すようになったという。

中尾教授は、「アレルギー反応が出る食物をとらない、花粉を避けるといった対症療法に頼る食物アレルギーや花粉症の治療などにも活用できるのではないかと話している。」